

# 坪井(明治) 独力で頂点

## 京都学生対校陸上男子三段跳び練習に工夫重ね

15、16日、西京極陸上競

技場で開かれた陸上の第70

回京都市学生対校選手権で、

明治鍼灸大から一人で参加

した坪井良寛(4年)が、

男子三段跳びで優勝。走り

幅跳びも2位に入った。大

学の陸上部員が講義に追わ

れているため、たった一人



けるからこそ、勉強が自分

を見せている。

に生かせる」と両立に意欲

亀岡市出身。東輝中、亀

岡高で幅跳びと三段跳び選

予選前、練習で患った足底筋膜炎が長引き、「何も力が出せずに終わった」。陸上に取り組む多くの高校生が悩むのが、「予防や回復など陸上選手に役立つ勉強を」と、鍼灸師を目指せる大学を選んだ。

運動生理学やスポーツ障害、針治療などの講義が午後8時まで詰まっている日もあり、自らメニューを考え一人で跳び続けている。

「地道な練習と体のケアを怠らず、毎年ベスト更新を続け」、出場3度目の今大会ではベストに近い14尺43

京都インカレに明治鍼灸大からただ一人出場した坪井の走り幅跳び

の試技(西京極陸上競技場)

でついに頂点に立った。

陸上部は夏の全日本医歯薬獣医学大会で毎年上位に入る。「高校で実績のある部員もいるが講義も忙しく、これ以外の他の大会に挑戦する者はいない」(坪井)といい、今年の京都インカレ対校得点では一人で15点を稼ぎ、男子17校中フイルドの部で7位に入った。

今年2月末の鍼灸師の国家試験を目指していたため練習との両立に工夫をこらし、短時間集中練習で見事合格。「卒業後も大学院が専門学校で勉強を深めた。毎年1つずつでもベスト更新を目指し、今後も競技を続けたい」と向上心は尽きない。

(小池直弘)